



ほっとねっと通信

第 5 号

H28・6

皆さんお元気でお過ごしでしょうか。ほっとねっと事業は順調に活動を広げ「ほっとねっと通信」第 5 号の発行に至りました。

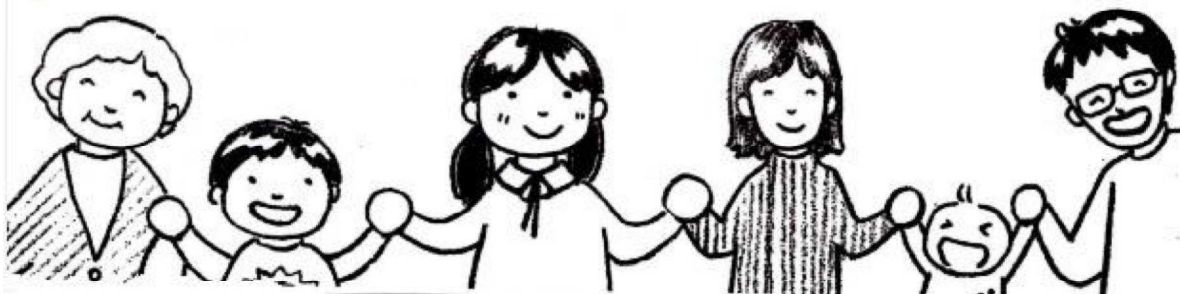
ほっとねっと 5 年目を迎えて

理事長 西田由記子

2011 年 5 月 27 日、NPO 法人子育てほっとねっとの前身、子育て支援団体「子育てほっとねっと」が誕生しました。それからちょうど 5 年。あつという間の時間でしたが、ずいぶん遠くまで歩いてきたものだと思います。子育て支援団体「子育てほっとねっと」の設立総会の資料をめくってみると、設立趣旨について「まずは、那須塩原市のファミリーサポートセンターの運営の受託を目指し、そこを基点に、必要な子育て支援は何かを常に考え、自分たちに必要なものを自分たちで作っていく団体を目指していきたいと考えています」とあります。このときにはファミリーサポートセンターだけでなく、つどいの広場を、しかも 2 つも運営できることになろうとは、思ってもみませんでした。

那須塩原市は今、2017 年度から 10 年間のまちづくりの指針となる第 2 次那須塩原市総合計画策定の途上にあります。子育てほっとねっとも総合計画審議会の委員に加わらせていただき、子どもと子育て中の家族が心豊かに暮らせる市になることを願って、実践の中で見えてきたこと、感じたことを臆さずどんどん伝えています。

今年は子育てほっとねっとも、次の 5 年間、どこへ向かっていきたいのか、みんなですっきりとした青写真を描いていく年にしたいと思っています。できるか、できないかということよりも、それぞれがやってみたいと思うことを出し合っていきましょう。願わなければ実現しないのですから。そして、一緒に夢を語る仲間を一人でも二人でも増やしていけたらと思っています。



NPO 法人「ほっとねっと」会員募集中！

当法人の目的に賛同し、活動推進する個人および団体の方。下記までご連絡ください。

年会費⇒ 正会員＝2000 円

支会会員＝1000 円（1 口）

連絡先 TEL 090-9230-8755 FAX 0287-47-6252

E メール hotnet@tbz.t-com.ne.jp

代 表 西田由記子

☆～H28・1・30 東那須野公民館で開催～☆

ほっとねっとで初めての講座・研修事業で「ホームスタート講演会」を東那須野公民館で行いました。会員のほかにも市役所



関係、子育て支援者、日光市のファミサポ（NPO 咲らん坊）やホームスタート

白河の方々など 44 名の参加があり、皆さん熱心に聞いて質問などもでていました。

昨年の 7 月に白河のホームスタートの報告を聞きに行った時、ホームスタートジャパンの方から「まだ栃木県では講演会をしたことがないのでどうですか？」と声をかけていただいたところからはじまりました。今回はホームスタートとはどういうものか？をまず皆さんに知ってもらえたらという感じでしたが、孤立しがちな子育て家庭へ寄り添う訪問支援は、つどいの広場・ファミサポ事業ではできないところを少しでもカバーできるのではないかと思います。この事業について一緒に考えてみませんか？

担当 磯恵子 長瀬美香

平成 27 年度の集団託児

平成 27 年度は西那須野地区 3 件、黒磯地区 6 件、計 9 件の集団託児依頼があり、0 才～10 才までの延べ 60 名の元気いっぱい子ども達をお預かりしました。依頼の内容としては、講演会や料理教室、手芸教室の際の託児ということで、9 件中 6 件は芸術の秋！ということでしょうか、10 月と 11 月に集中して行われました。

託児依頼が来て、お子さんの年齢、人数、性別などを聞き、託児室の環境を想像しながら「どうやって仲良くなろう？」とおもちや絵本などを用意する時間は緊張しながらもとても楽しいものです。未就園のお子さんがほとんどで、初めて誰かに預けるという方も多いので、保護者の方とお別れする時には泣いてしまう子もいますが、スタッフはあの手この手であやし、子どもの気持ちに寄り添い、遊びに誘います。そしてお互いの根比べの末に引き出せた子どもの笑顔を見ることができた時、別れ際にお母さんに「お陰様でゆっくりイベントに参加できました。」という言葉がいただけた時は短い時間の託児ではありますが、大きな

達成感が得られます。

また、回数を重ねるごとに集団託児で出会った子ども達やお母さん達のま～るや



ほっぺ、ファミサポを通したつながりが見えてきたり、さらには親子と地域の新たな出会いをつなぐきっかけになっているということも知ることができ、イベント時の一時的な託児という枠を超えて人と人とをつなぐ活動であることを実感しました。

昨年の秋に前任者から引き継いだ際は、責任の重さに不安でいっぱいでしたが、託児スタッフ、保護者の方々、そして子ども達に教えられ、支えられて無事に活動を重ねてことができました。これからも皆さんの教えをいただきながら、安全で預けてよかったと思ってもらえるようなあたたかい保育を心掛けながら集団託児を行っていきたいと思います。

担当 安田智子



つどいの広場ほっぺも3年目を迎えました。開設当初やっと首がすわったばかりだった男の子が、畑で一緒に見よう見まねでじゃがいも植えを手伝ってくれるまでになりました。

子どもたちの成長を間近で見ることができるのは大きな幸せです。乳幼児とその家族のための居場所であるほっぺからはみんなやがて巣立っていきます。でも、大人も子どももその先それぞれの場で成長していくことを楽しみにしています。

ほっぺは利用者のみんなと一緒に作っていく場でありたいと思っています。年間計画はもちろん立てていますが、日々の主にお母さんたちとのやりとりのなかで、お母さんたちが今必要としているものを聞き取り感じ取り、必要に応じて変えていくようにしています。計画は立てすぎないことも大切というのが2年間の実感です。お母さん自身が得意なこと、好きなことを生かす場もできるだけ作っていかうとしています。

つどいの広場

今年度より新しいスタッフが入りました。新しいスタッフに戸惑う子や前年度のスタッフに思いを寄せるお母さんなど、様々な思いで28年度の「ま〜る」がスタートしましたが、私たちスタッフはこれまでの「ま〜る」と変わらず利用してもらえよう連携し、笑顔の対応をしていきたいと思っています。また、今年度は以前より要望のあった赤ちゃんの日を毎月3回（1日、11日、22日）に増やしました。多くの家族の利用を期待しています。

さらに、子ども子育て総合センターの子

柔軟な対応をとれるところが何ととってもNPO法人の強みです。

27年度は1年間で242日、1913組がほっぺを訪れました。大人、子ども合わせると3992人になります。3年で利用者が1万人を超えらると思うと、小さな積み重ねも大きなものとなるのだなと思います。一方、まだまだほっぺを知らない人、知っていても最初の一步が踏み出せない人もたくさんいます。（前から一度来てみたいとは思っていたのだけれど……という話はよく聞きます）まずはどうやって足を運んでもらうかをもっともっと考えていかななくてはならないと思っています。

たくさんの方々のご協力で「出会い ふれあい つながる」場となりつつあることに心から感謝しています。

スタッフ 西田由記子 室井智江子
星由美子 小黒ユリ 大野陽子



育てコンシェルジュ相談日は、まだ開催日は少ないものの、とても熱心に現在の子育ての状況についてなど相談する姿が多くみられます。子育ての悩みはいつの世の親でも変わらず、尽きないものだとして改めて考えさせられました。女流歌人、河野裕子さんの作品に『しっかりと飯を食わして陽にあてて ふとんにくるみて寝かすしあわせ』というものがあります。このような幸せを「ま〜る」を利用して帰った日に、すべての利用者さんが感じられることを願いスタッフ一同がんばっていききたいと思っています。

スタッフ 高根澤明子・沢登順子・後藤晴美・川島貴子・藤田弘子

27 年度を振り返って



ほっとねっとの会員の皆様の温かいご支援のおかげで、いよいよファミリーサポートセンター仕上げの年、5 年目を迎えることができました。

この 4 年間、地道に依頼を受けサポートを続ける中で、サポート会員の誠実なお人柄や仕事ぶりに、依頼会員とサポート会員の信頼関係が確実に築かれてきていると感じます。

サポート依頼については地域差もあり、なかなかサポートができない会員もいますが、それでもサポート会員となって地域の子育てに関心を寄せてくださる方が増えるのは嬉しいことです。

27 年度は前半のサポート件数がやや少なめだったのですが、夏に市の子育て応援券が 2 歳以下の子どもがいる家庭に配付されたのをきっかけに未就園児の預かりや送迎の依頼が増えました。後半は定期的な送迎や預かり依頼もぐっと増えて、今まであまり動きのなかった備品の乳児用チャイルドシー

トもよく使われるようになり、最終的には **1,279 件** の依頼となりました。

たくさんの親子と出会う中で、子どもは大丈夫だけど親自身が不安なのかな？と思う事もあります。そんな時は利用会員の話をしっかり聴くことで、少しでも不安な気持ちが和らぎ気持ちが整理できるよう利用会員に寄り添うように心掛けています。

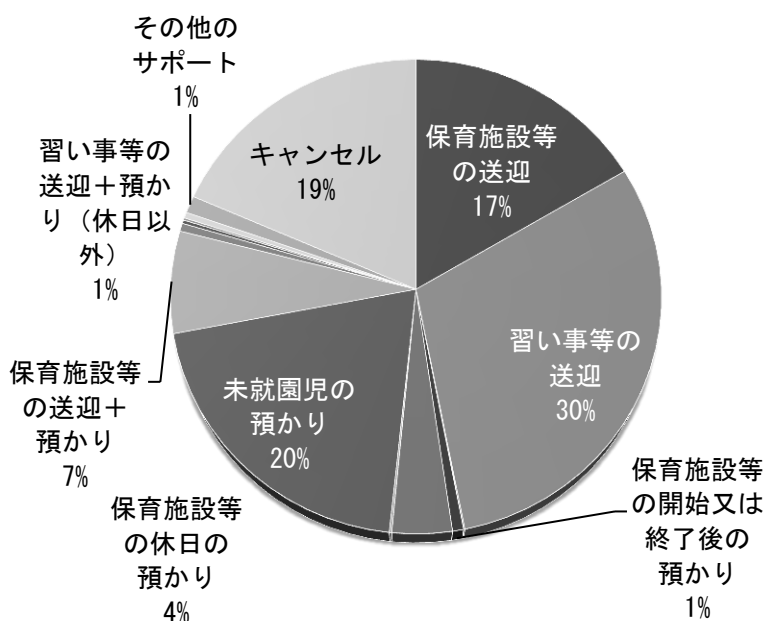
また、特別支援学級に通っているお子さんのサポートを利用されていた会員からは「この 3 年間大変助かりました。でも子どもが中学卒業するとガクッと支援が減ってしまうんですね。」という切実な声を頂きました。

低所得世帯や一人親など、経済的に厳しい家庭でもファミサポが利用しやすくなれば、虐待などにつながりかねない芽を早いうちに発見できるかもしれないと考え、市に補助を提言してきましたが、実現には至りませんでした。

ファミサポの枠組みの中では解決できず、歯がゆい思いをすることもあります。小さな声に耳を傾け、必要な時には行政に伝えたりつなげたりすることも、私たちの大切な仕事のひとつだと思います。

28 年度も「ファミサポがあって良かった！」と思ってもらえるよう、スタッフ一同力を合わせて頑張っていきますので、どうぞよろしくお願いいたします。

スタッフ 長瀬美香・佐々木ツヤ子
磯恵子・安田智子・田仲順子



ほっとねっと専用携帯電話が設置され集団託児等に使っています。お気軽にご利用ください。

090-9230-8755